

令和2年度(1月~3月) 日程表		Schedule																														
2021 1	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	
	〈展示室1〉普通展示(浮世絵):吉田博の風景版画(1/2~1/31)																															
	〈展示室2〉普通展示(東洋陶磁):中国やきもの入門(華南編)(1/2~3/7)																															
	〈展示室7〉普通展示(陶芸):三輪龍氣生展 一龍人伝説(1~3/7)																															
	〈展示室8〉普通展示(陶芸):はなやぎのかたち(1/2~3/7)																															
	〈特選鑑賞室〉鳥居清長 大坂新町西槌屋 琴鶴太夫 りきの ふじの(1/2~1/31)																															
〈茶室〉沖 潤子「anthology」(アンソロジー)(~3/28)																																
2	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28				
	〈展示室1〉普通展示(浮世絵):豊原国周の美人画(2/2~3/7)																															
	〈展示室2〉普通展示(東洋陶磁):中国やきもの入門(華南編)(~3/7)																															
	〈展示室7〉普通展示(陶芸):三輪龍氣生展 一龍人伝説(1~3/7)																															
	〈展示室8〉普通展示(陶芸):はなやぎのかたち(1~3/7)																															
	〈特選鑑賞室〉二代歌川広重 諸国名所百景 周防岩国錦帯橋(2/2~2/28)																															
〈茶室〉沖 潤子「anthology」(アンソロジー)(~3/28)																																
3	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	
	〈展示室1〉普通展示(浮世絵):豊原国周の美人画(1~3/7)															〈展示室1〉普通展示(浮世絵):雪月花一花(3/16~4/18)																
	〈展示室2〉普通展示(東洋陶磁):中国やきもの入門(華南編)(1~3/7)															〈展示室2〉普通展示(東洋陶磁):やきものの装飾 刻む・彫る・印す・割る(3/16~4/18)																
	〈展示室7〉普通展示(陶芸):三輪龍氣生展 一龍人伝説(1~3/7)															〈展示室7〉普通展示(陶芸):オブジェ-陶造形の潜勢力IV(3/16~11/23)																
	〈展示室8〉普通展示(陶芸):はなやぎのかたち(1~3/7)															〈展示室8〉普通展示(陶芸):十三代三輪休雪の茶陶(3/16~6/27)																
	〈特選鑑賞室〉鈴木春信 腰付馬で遊ぶ男児(3/1~3/31)																															
〈茶室〉沖 潤子「anthology」(アンソロジー)(~3/28)																																

● 休館日 ★ イベント ▲ アーティスト・トーク ● ギャラリー・ツアー ■ ギャラリー・トーク

- ★ イベント
- 「お正月は美術館へ行こう！」
 日 時 ● 1月2日 [土]
 内 容 ● 和太鼓の演奏や神楽「鐘遣」の公演、来館者プレゼント、新成人無料招待など。
 ホームページからのポチ袋とマスクケース型紙プレゼントと応募いただいた
 アート年賀状の作品展示は1月31日 [日] まで
 出 演 ● 大板山たたら太鼓同好会、むつみ神楽保存会
- ▲ アーティスト・トーク (出品作家による展示作品解説/茶室展示関連イベント)
 日 時 ● 3月28日 [日] 午前10:30~
 内 容 ● 沖潤子氏によるトークをオンライン配信。詳細はP2
- ギャラリー・トーク (担当学芸員による展示作品解説)
 いずれも11:00~(30分程度)
 1月 9日 [土] はなやぎのかたち
 1月 23日 [土] 吉田博の風景版画
 2月 13日 [土] 中国やきもの入門(華南編)
 2月 27日 [土] 豊原国周の美人画
 3月 27日 [土] 雪月花一花
 定 員 ● 各日10名(要事前予約・要観覧券)
- ※ギャラリー・トークの事前予約について
 ☎0838-24-2400にて、①~④をお知らせください。
 ①参加希望日 ②参加者の氏名 ③年齢 ④代表者の日中の連絡先電話番号
 ※ギャラリー・トークへのご参加には観覧券が必要です。
 ※イベント詳細については美術館ホームページをご覧ください。

はぎびさい 萩美祭2020

萩焼をはじめとした地域の芸術によって交流促進することを目的としたアートイベントです。従来は参加型イベントを中心に実施してきましたが、今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、ウェブ上で多くの方々にお楽しみいただける形で実施します。

「窯元をたずねて生けるいけばな」

金子凜草さん(いけばな草月流)が
 山口県で活躍する陶芸家の窯元で花を活けます。
 協賛: 山口県立美術館/山口県立秋美術館・浦上記念館
 法人サポーターズ



※新型コロナウイルス感染拡大防止のため、臨時の休館やイベントを中止・変更する場合があります。詳しくは当館ホームページをご覧ください。

お問い合わせ TEL: 0838-24-2400

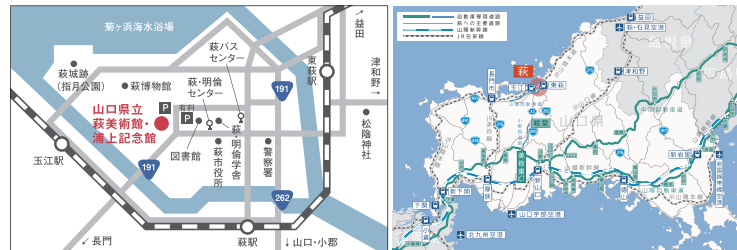
URL: <https://www.hum.pref.yamaguchi.lg.jp/>

名誉館長 逝去のお知らせと表紙について

名誉館長 浦上敏朗氏は、2020年8月15日(土)、心不全のため逝去いたしました。ここに生前のご厚誼を深く感謝するとともに、謹んでお知らせいたします。[関連記事P4]
 故人の数多のコレクションから、世界で3点しか現存していない名品 葛飾北斎《風流無くてなぐせ 遠眼鏡》を今号の表紙といたしました。改めて生前のご功績を偲び、ご冥福をお祈りいたします。

交通アクセス

- 【新山口駅から】
 ●直行バス(スーパースターはぎ号)(約60分)で萩-明倫センター下車、徒歩約5分
 ●防長バス(約95分)で萩バスセンター下車、徒歩約12分
- 【山口宇部空港から】萩・石見空港から
 ●萩近鉄タクシー(乗合タクシー)約70~80分(利用前日までに要予約)
- 【JR山陰本線】
 ●JR萩駅から萩循環まあるバス(西回り)約30分
 ●JR東萩駅から萩循環まあるバス(東回り)約30分
 ●JR玉江駅から徒歩約20分
- 【自動車】
 ●「中国自動車道」美祿東JCT経由、「小郡萩道路」絵堂ICから約20分
 ●「山陰自動車道」三見ICから約10分、国道191号沿い



H A G I 萩

WINTER ISSUE 2021

98

題字は吉田松陰筆跡



とよはらくにちか びじんが 豊原国周の美人画

会 令和3年(2021)
期 2月2日(火)～3月7日(日)

豊原国周は、幕末から明治時代にかけて活躍した浮世絵師です。はじめ豊原周信について羽子板押絵の原図を描いたとされ、歌川国貞に入門した後、安政2年(1855)頃から国周と署名するようになりました。“江戸っ子”と伝えられる人柄のとおり、文明開化のさなかにも伝統的な様式の浮世絵を描き続けました。

今回は国周の美人画を取り上げ、初期の作品から代表的な揃物を含む31点をご紹介します。



豊原国周《開花人情鏡 納涼 大判錦絵 明治11年(1878)

やきものの装飾 刻む・彫る・印す・刻る

会 令和3年(2021)
期 3月16日(火)～4月18日(日)

やきもの(陶磁器)には古今に多くのバリエーションが存在し、この多様性は、やきものを「装飾」することによって生み出されている部分が少なからずあります。

やきものの装飾には、胎土を彫って形状を変化させる彫刻、顔料を用いて抽象や具象の文様を描く彩画、釉に含まれる金属化合物の種類や割合から発色を変化させる色釉などの方法があります。

今回紹介する彫刻はさらに細かく、表面を線刻して文様の輪郭を表す、モチーフを彫りだす(例えば動物など)、スタンプを使って同様の文様を大量に押し込む、胎土の塊の中身を削り出して器の形とする、などに分かれます。職人たちの緻密な技術を内包した彫刻のやきものを、本展を通じてお楽しみください。



《青磁刻花花文盤》北宋時代・12世紀

せつげつ か はな 雪月花—花—

会 令和3年(2021)
期 3月16日(火)～4月18日(日)

美しい四季の景観を意味する「雪月花」という言葉があります。唐の詩人、白居易(772～846)は、かつての部下に送った詩の中で「雪月花の時に最も君を憶う」と詠みました。廻る季節の中で、自然の美しさは、新しい季節の到来を祝福するだけでなく、懐かしい思い出を追憶させるものであり、それゆえに一層、味わい深いものです。「雪月花」の語は、『枕草子』や和歌をはじめとする「もののあはれ」の美学を貫く日本の古典文学に引用され、また絵画においても伝統的な画題として定着していきました。

今回の展示では「雪月花」から花を描いた作品をご紹介します。



山本昇雲《いま姿 寒牡丹》大判錦絵 明治42年(1909)

沖潤子 Anthology

会 令和2年(2020)4月4日(土)～
期 令和3年(2021)3月28日(日)



オンライン・トークのご案内

これまで茶室展示では、オープニングやクロージングの機会にあわせて作家を迎え、作品についてのお話を聞きながらお茶を楽しむ会を開催してきました。このたびは新型コロナウイルス感染拡大防止のため、従来の茶会に替えて、作家によるオンライン・トークを実施します。

一年間展示してきた「沖潤子 Anthology」の締めくくりとして、茶室にて沖さんご本人にお話ししていただきます。

YouTubeにてライブ配信 2021年3月28日(日) 午前10:30～1時間程度

作家への質問募集!

オンライン・トーク中に、沖さんが皆様からのご質問にお答えする時間を設けます。

方法

当館メールアドレス〈hum19305@pref.yamaguchi.lg.jp〉まで、下記を記入のうえ、ご送信ください。

- ① 件名に「オンライン・トーク」
- ② 本文に質問内容(作品制作について、作家について etc.)
- ③ お名前(当日の進行は未定ですが、匿名を希望される方はその旨をお伝えください。)

期間 1月15日(金)～3月1日(月)

※手紙・ハガキでのご参加も可能です。

〒758-0074 萩市平安古町586-1 山口県立萩美術館・浦上記念館 オンライン・トーク係 まで

オブジェ—陶造形の潜勢力Ⅳ

会 令和3年(2021)
期 3月16日(火)～11月23日(火・祝)

令和となって襲名した十三代三輪休雪(本名・和彦 1951-)は、昭和59年(1984)山口県立美術館で開催の展覧会「いま、大きなやきものになにが見えるか」で作家デビューして以来、常に生の土が発する主張を聴き続け、斬新で力強い大型陶造形を生み出してきました。中でも最大規模として知られる作品が今回紹介する《黒の遺構》です。総重量20トンもの粘土を24本の角柱状に立ち上げ焼成した巨大なオブジェ陶の作品群で、その壮大なインスタレーションは観るものを圧倒し、その崇高な趣はある種の聖性すら感じさせます。

十三代休雪自らの身体を用いて素材である土と交わり、成形、乾燥、焼成という制作の過程において生じる土の特性を極限までに引き出した陶の造形表現をご堪能ください。



十三代三輪休雪《黒の遺構》(部分) 2006年 撮影：斎城卓

十三代 三輪休雪の茶陶

会 令和3年(2021)
期 3月16日(火)～6月27日(日)

萩焼の伝統窯三輪窯の家督を令和となって継いだ十三代三輪休雪(本名・和彦 1951-)は、土とのリアルな交わりをそのまま表現に取り込んだ大型の陶の造形作品を制作する一方で、伯父の三輪休和(十代休雪)が完成させた白萩釉「休雪白」と父三輪壽雪(十一代休雪)による剝貫きや鬼萩の造形思考を受け継いだ斬新な茶陶を創り出しています。とりわけ近年の「エル キャピタン」と名付けた茶碗のシリーズは、自然の大地から想起させる絶対的の量塊を土との即興的な交わりの中で自らのかたちとして表したもので、十三代休雪の掌の世界が存分に伝わってきます。

三輪窯の歴代の作り手たちがそれぞれ強烈な個性を發揮した茶陶の優品とともに、当代十三代休雪の力強く躍動感あふれる茶陶のかたちを紹介します。



十三代三輪休雪《エル キャピタン 茶碗》2020年 個人蔵 撮影：マキタオモリツグ

訃報 浦上敏朗名誉館長逝去

当館名誉館長の浦上敏朗氏が、去る8月15日に心不全のためご逝去されました。

当館は、萩市出身の実業家であった浦上敏朗氏(大正15年<1926>～令和2年<2020>)が40年近くにわたって蒐集された浮世絵と東洋古陶磁を核としたコレクション(浮世絵版画1,868点、中国陶磁器237点、朝鮮陶磁器86点、近現代版画や中国青銅器など43点ほか、図書資料多数)を、平成5年(1993)に山口県に一括して寄贈されたことを契機に、同8年(1996)10月14日に開館しました。

浦上氏は当館名誉館長として、毎年美術品の寄贈を続けられて、コレクションの充実を図られるなど当館活動の発展に大いなる貢献を果されました。ここに生前のご厚誼を深く感謝するとともに、謹んでお知らせいたします。



浦上敏朗氏(1996年2月、東京銀座にて)

11月18日に萩市による市葬が行われ、約200人の市民が参列し故人を偲び追悼しました。



山口県立萩美術館・浦上記念館
HAGI URAGAMI MUSEUM

令和3年度特別展示のご案内

ブダペスト国立工芸美術館名品展
ジャポニズムからアール・ヌーヴォーへ
—日本を夢見たヨーロッパ工芸
4/24(土)～6/20(日)

19世紀後半、日本の美術・工芸品がヨーロッパに流入し、日本の文物に人々が熱狂する「ジャポニズム」現象が起こりました。本展は、ジャポニズムとアール・ヌーヴォーをテーマに、日本美術を西洋がどのように解釈したかについての歴史を辿るものです。ガレ、ドーム兄弟、ティファニーやハンガリーを代表するジョルナイ陶磁器製造所などによる貴重な作品群約200点をご紹介します。



ルイス・カンフォート・ティファニー「孔雀文花瓶」1898年以前
ブダペスト国立工芸美術館蔵

光ミュージアム所蔵
美を競う肉筆浮世絵の世界
7/3(土)～9/5(日)
岐阜県高山市にある、光ミュージアム所蔵の肉筆浮世絵の名品を、初めて一挙で紹介。肉筆浮世絵ならではの、やわらかで優美な魅力をご堪能ください。



溪斎英泉「立ち美人」
文政年間(1818-30)
光ミュージアム蔵

海を渡った古伊万里
～ウィーン、ロースドルフ城の悲劇～
9/18(土)～11/23(火・祝)
国内にある古伊万里の名品とともに、第二次世界大戦で破壊された陶片を含むロースドルフ城の陶磁器コレクションを海外初公開し、波乱にとんだその全貌を紹介いたします。



「色絵唐獅子牡丹文亀甲透影瓶」(部分修復)
有田窯 1700-1730年代
オーストリア・ロースドルフ城蔵
撮影：大屋孝雄